# 第六回学校史研究会（報告）

令和５年９月 16 日（土）に「学校史研究会」の第六回研究発表会を行いました。参加者は５名でした。今回は一年振りの開催となり、福手一義氏（10 期卒）の「第二次世界大戦の各務原・岐阜空襲」と坂井至通氏（12 期卒）の「五十年のあゆみにおける『わが職場』の記事まとめ」の報告がありました。

## I. 「第二次世界大戦の各務原・岐阜空襲」福手一義（10 期卒）

１９０６年（明治３９年）岐阜市西杉山町で創立され、岐阜市八ッ梅町を経て現在岐阜市野一色地にある学校ですが、長い歴史の中には苦難の時代もありました。

（平成 10 年発行「各務原市民の戦時写真」より）

まず、この写真をご覧ください。タイトル（右下欄外）には「川崎航空機で働く富田高女の生徒　昭和１９年」と有ります。勤労学徒として飛行機の部品を作っているところです。全員が白鉢巻きをして制服で作業を行っています。中央の４人組は飛行機の翼部分と思われる部品を、右の４人組は作業台に向かって電気ドリルと思われる工作機械を扱っています。当時の各務原川崎航空機工場は鉄骨スレート造りで写真の工場は岐阜市内で川崎航空機の分散工場として使われていた紡績工場のようです。

生徒さんは全員制服ですが足元は下駄や草履、ズックと時代を物語っています。このように生徒は兵隊として戦場に駆り出された工員の代用として工場で働くことがほとんどの学校で行われていました。また学校自体も分散工場となっていました。

2. Schedule of air-raids

(A) Date of air-raids

| Dates and hours of air-raids | Names of factories | Remarks |
|---|---|---|
| June 9th 1945 12h22m–12h32m | Main factory at Kagamigahara | Gun shooting slight damage |
| " 25th " 9h28m–9h45m | " " | Bombing on main factory |
| | | Damage 40% |
| " 26th " 9h10m–10h49m | " " | " 38% |
| July 9th 1945 22h23m | Hojo, Fuji, Asahi, Misato and | Raid by the incendiary |
| " 10th ~ 1h43m | Chusetsu branch factory | shells and bombs |
| 1945年7月9日 | Work shop at Hibarigaoka, Kano Girls' | 焼夷弾による爆撃 |
| | High school and Tomida Girl's School | |
| July 19th 1945 22h30m–24h10m | Fukui Branch Factory 富田女子校 | Raid by the incendiary shells and bombs |
| July 28th 1945 11h45m–12h23m | Main factory at Kagamigahara | Bombing and gun shooting |
| July 28th 1945 22h30m | Ichinomiya Branch Factory | Raid by the incendiary |
| " 29th " ~ 1h30m | Work shop at Hama and Okoshi. | shells and bombs |
| July 30th 1945 9h30m | Sakahogi Branch Factory | Gun shooting |

**（川崎航空機が戦後１９４５年１０月に米軍に提出した資料）国立国会図書館デジタルサイト**

この資料から富田女子校が（岐阜市八ッ梅町校舎）が１９４５年７月９日の岐阜空襲で焼失したことがわかります。左側の欄は日付、中央欄は工場名、右は Remarks 論評

**MISSION SUMMARY**

**Mission Number 260**

1. **Date**: 9/10 July 1945
2. **Target:** Gifu Urban Area
3. **Participating Unit**: 314th Bombardment Wing
4. **Number A/C Airborne**: 135
5. **% A/C Bombing Primary**: 95.55% (129 primary & 1 opportunity)
6. **Type of Bombs and Fuzes**: E46, 500#, incendiary clusters with tail set to open 5000 above **Target:** and AN-M47A2, 100# incendiary bomb with instantaneous nose.
7. **Tons of Bombs Dropped**: 898.8 tons on primary & 8.7 tons on secondary.
8. **Time Over Primary**: 100034K - 100220K
9. **Altitude of Attack**: 14,720 - 17,700 feet
10. **Weather Over Target:** 0/10
11. **Total A/C Lost**: **1**
12. **Resume of Mission**: Photo reconnaissance revealed that 1.93 sq. mi., or 74 % of the city's built-up area, were destroyed. The Target was visible to 105 A/C and not visible to 24. 5 A/C were non-effective. 10 E/A sighted made 3 attacks. Coordination was noted between E/A and S/L's. Flak was heavy, meager to moderate, and inaccurate. AW fire was meager to intense and inaccurate. 4 to 12 S/L's observed. All crew members of ditching between Rota and Saipan were rescued. The **B-29** lost caught fire after leaving the Target. After its crew bailed-out, it exploded in mid-air. 3 **B-29**s landed at **Iwo Jima**. Average Bomb Load: 14,676 lbs. Average Fuel Reserve: 685 gallons.

**（米国にある第 20 空軍任務報告書　第 21 爆撃集団作戦概要報告書デジタルサイト）**

すると書かれています。他に加納女子高校など数か所の分散工場が記載されており、岐阜市内にも多数の工場があったことがわかります。岐阜空襲とは 1945 年 7 月 9 日深夜から 10 日未明にかけて行われた米軍 B29 爆撃機による焼夷弾を用いた爆撃です。

「ミッションの概要　ミッションナンバー２６０」

1,　日付　１９４５年７月９～１０日

2,　対象　岐阜市街

3,　参加部隊　第 314 航空団

4,　参加機体数　　１３５機

5,　第 1 目標爆撃機数 95.55%（第 1 目標 129 機．臨機目標 1 機）

6,　爆弾と信管の種類　E46　250ｋｇ収束焼夷弾　目標上空 5000 フィートで結束バンドを解放
　　弾底信管　　M47　100 ポンド焼夷弾　瞬発弾頭

7,　投下爆弾トン数　　第 1 目標 898.8 トン、第 2 目標 8.7 トン

8,　目標上空時間　　7 月 9 日 23 時 34 分～10 日 1 時 20 分

9,　攻撃高度　　4480m～5300m

10,　目標上空の天候　　雲量 0　ほぼ快晴

11,　損失機数　　1 機

12,　任務の概要　　写真偵察により市街地の 74%に相当する 1.93 平方マイル
　　または 74%を破壊、105 機が目標を目視、24 機が目視できず。5 機が効果なし。敵機 10 機を視認、攻撃回数 3、敵機とサーチライトの間で調整が行われた。高射砲は重く、貧弱から中程度で不正確でした。対空砲火は貧弱から強烈なものまであり、精度も不正確でした。4～12 のサーチライトが観測されました。ロタ島とサイパン島の間で不時着した機体は乗組員全員が救助されました。B29 は目標を離脱後、火災発生。搭乗員がパラシュートで脱出後、機は空中で爆発。3 機の B29 が硫黄島に着陸。平均爆弾搭載量 7300 kg 平均燃料残量 2600ℓ 市街地の 74%が消失したと記載されており、多くの犠牲者がでたことが想像できます。

上記の岐阜空襲　第 260 作戦概要報告書翻訳文です。

## II. 「五十年のあゆみ」に見る「わが職場」　坂井至通（12 期卒）

現在、会報誌「ひんがし」は 46 号まで発行されています。今後も会員の皆様のご活躍を広く取材をし、後世に記録を残して同窓会会員の活躍を伝えていきたいと思います。

表１　会報誌「ひんがし」に見る「わが職場」の記事

| 五十年の歩み | ひんがし | 発行年月日 | ナンバー | 記事 | 会社名 | モットー | 同窓生数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 004 | 創刊号 | 昭和47年7月31日 | (1) | 沢田　亨夫（0221） | 十六銀行 | 富田女史と「一色会」 | 17名 |
| 010 | 2号 | 昭和47年12月10日 | (2) | 木村　佳資（0321） | 岐阜瓦斯 | 都市ガス導入 | 5名 |
| 014 | 3号 | 昭和48年5月26日 | (3) | 臼井　範行（0722） | 日建産業・日建工業 | やりぬく精神 | 8名 |
| 022 | 4号 | 昭和48年9月7日 | (4) | 山田　勝（0621） | 揖斐川工業 | 自分と自分の周りの人々の幸せのために | 5名 |
| 030 | 5号 | 昭和49年2月28日 | (5) | 柴田　孝美（0531） | 天竜工業 | お客様第一、一流の品質、先ず協調 | 12名 |
| 036 | 6号 | 昭和47年7月31日 | (6) | 柴田　孝一（0922） | 丸物百貨店 | さすが丸物だ | 15名 |
| 044 | 7号 | 昭和50年6月30日 | (7) | 福地　正次（0221） | 岐阜トヨペット | やりぬく精神 | 19名 |
| 053 | 8号 | 昭和51年1月1日 | (8) | 金武　利津夫(0922) | 昭和薬品株式会社 | やりぬく精神 | 7名 |
| 080 | 11号 | 昭和52年12月24日 | (9) | 渡辺　和彦（1213） | スリーラスター㈱ | 丸物百貨店 | 4名 |
| 094 | 13号 | 昭和54年6月30日 | (10) | 服部　藤郎（0622） | 岐阜トヨタ自動車 | 人づくりと生き生きとした集団 | 22名 |
| 101 | 14号 | 昭和55年1月1日 | (11) | 浅野　忠雄（1221） | 岐阜県労働金庫 | 全国で働く者のお役に立つ | 6名 |
| 110 | 15号 | 昭和55年10月1日 | (12) | 五島　仁光（0723） | 各務原市役所 | 人間と豊かな自然の調和した明るく住みよい近代的文化的な都市 | 38名 |
| 118 | 16号 | 昭和56年6月30日 | (13) | 浅野　邦安（0421） | 学校法人富田学園 | 両校の独自性が強まる | 12名 |
| 124 | 17号 | 昭和57年7月20日 | (14) | 伏見　勝（0822） | 株式会社清水屋 | 感謝　誠実　忍耐 | 6名 |
| 132 | 18号 | 昭和58年3月1日 | (15) | 浅野　秀万（0822） | 株式会社岐阜カリモク | 対話のある楽しい職場造り | 8名 |
| 166 | 22号 | 昭和61年7月19日 | No15 | 吉川　靖正（1911） | 岐阜バス | ふれあいの絵がをを乗せる岐阜乗り合い | 13名 |
| 182 | 24号 | 昭和62年12月19日 | No16 | 伊藤　慎一（1611） | 西濃印刷株式会社 | 暮らしを豊かに彩る印刷 | ? |
| 193 | 25号 | 昭和63年7月1日 | No18 | 土肥　範充（2321） | 岩戸工業株式会社 | 誠実・努力 | 12名 |
| 202 | 26号 | 平成1年5月1日 | No19 | 堀　功二郎（2721） | (株)岐阜グランドホテル | 施設・料理・サービスの3拍子揃った岐阜の迎賓館を目指し「Keep　a　Smile」 | 1名他 |
| 210 | 27号 | 平成2年4月10日 | No20 | 奥村　隆（1341） | カヤバ工業株式会者 | 油圧システム製品を通じて広く社会に貢献 | 16名 |
| 220 | 28号 | 平成3年7月20日 | No21 | 伊藤　和雄（0731） | 岐阜シェル石油販売(株) | やりぬく精神 | 4名 |
| 224 | 29号 | 平成4年7月20日 | No29 | 山下　鉄雄（0722） | 大垣信用金庫 | 地域社会との協調・会員との連携・職員との意思疎通 | 12名 |
| 232 | 30号 | 平成5年7月30日 | なし | 向井　和雄（0622） | 岐阜プラスチック工業(株) | グループ各社の発展を誓う | 11名 |
| 349 | 45号 | 平成21年5月31日 | なし | 約15年間「わが職場」が記載されていません。 | | | |

１．　岐東高等学校の設立は、昭和 33 年（1957）3 月 31 日に県知事から正式認可されたのが始まりです。同年 4 月 1 に理事会において「岐東高等学校(男子校）の設置」が正式に決定し、富田勇先生が初代校長、後藤秀彦先生が副校長に就任して開校しました。その後、昭和 37 年（1961）4 月 1 日には、「岐東高等学校を岐阜東高等学校」に変更しています。

２．　「岐阜東高校同窓会」は昭和 36 年（1961）4 月 1 日に最初の卒業生によって発足し、昭和 47 年（1971）7 月 31 日に同窓会創設 10 周年を記念して会報誌「ひんがし創刊号」が発行されました。「ひんがし」が作られたのは、開校 10 年も過ぎてからです。

３．　「ひんがし」のコーナー記事に「わが職場」が有り、最初に掲載されたのは「十六銀行」です。沢田亨夫氏（2 期卒）が記事を書かれました。以降毎号に「わが職場」の記事が寄せられ、「ひんがし 18 号」昭和 58 年（1982）3 月 1 日までの 10 年間で 15 社から「わが職場（15）」の紹介記事が有ります（表１を参照）。岐阜東高等学校が創設されて「やり抜く精神」を徹底的に生徒に伝えられた後藤秀彦校長と「わが職場」の記事と併行していたのかも知れません。

４．　しかし、それ以降の平成元年 5 月 1 日「ひんがし 26 号」までのほぼ 5 年間は、新卒業生により「わが職場（No15～No19）」に 4 社の紹介記事が掲載されていま

す。「ひんがし第 23 号」昭和 62 年（1986）5 月 22 日」が発行されたのは、第 4 代校長に長谷川匡一前教頭が就任・新教頭には斉藤守重教諭の時期です。この後は、平成 3 年に年配の卒業生が記事（27 号～30 号）を寄せています。編集担当が代わられたのでしょうか、ナンバーの継続性が見られません。この頃には、機械科記念碑「緑は消えず」を建立（昭和 49 年 3 月）に続き、商業科の生徒募集停止（第 31 号（平成 6 年 8 月 31 日）となり、学校経営も大きな変換点を迎えていた時期でもありました。岐阜東中学が開校して進学校を目指し（第 29 号、平成 4 年 7 月 20 日）、同時に蛍雪科は男女共学となりました。

5． 平成 5 年（1983）7 月 30 日「ひんがし 30 号」を最後に、同窓会設立 50 周年の平成 21 年（2009）5 月 31 日「ひんがし 45 号」まで発刊されましたが、その約 15 年間に「わが職場」の掲載記事はありません。会報誌「ひんがし」と言うより現在の「学園通信」的な内容に変わって来ました。そこには色々な状況が折り重なったと思われます。

6． 令和元年（2019）10 月 26 日同窓会設立 60 周年事業の一環として「ひんがし 46 号（特別記念号）」を 10 年振りに復活させ、「同窓会の卒業生」と「学校の職員」との情報交流の場として、会報誌「ひんがし」を見直す切っ掛けとなりました。今年度（令和 5 年度）には皆様のご活躍と在校生、現在の教職員、事務員の皆様と一緒に作り上げる「ひんがし 47 号」の発行する準備を進めています。

以上のように「わが職場」の記事を振り返る事によって、これまで先輩の方々や岐阜東高等学校の教員および事務員の方々の会報誌「ひんがし」発行へのご努力を知ることとなりました。記録を正しく残し続ける事の大切なことを改めて考え直しています。これからも、卒業生や学校活動の記事内容を充実させるため、努力を惜しまず「やり抜く精神」で「学校史研究会」の活動を継続して行きます。

## III. まとめ

今回は、福手一義（10 期卒）氏の「第二次世界大戦の各務原・岐阜空襲」と坂井至通（12 期卒）氏の「五十年のあゆみ」に見る「わが職場」について話しました。同窓会の会員数も 2 万人時代です。同窓会員の皆様の熱い心が伝わって、我が母校「岐阜東高等学校」を盛り上げて行きたいと思います。同窓会役員会も「設立 70 周年記念事業」に向け、世代交代を図りながらサスティナブルな同窓会として継続して行く決意でおります。またこの「学校史研究会」のこれまでの記事をご覧になりたい方は、ご連絡ください。

なお「五十年のあゆみ」は、会報誌「ひんがし創刊号から 45 号」まで記事を集大成した書籍です。まだ余裕が有りますので、ご利用になりたい方は岐阜東高校同窓会「ひんがし会館」館長（江刺　淳 13 期卒）までご連絡下さい。

「ひんがし会館」の便所・シャワー室がキレイに改装され、一同びっくり!!!

ひんがし学校史研究会　（記録　坂井至通　12期卒）